

## 2. 大会実践期間（平成 28～30 年度）における J A グループ岡山の取り組み

- 大会実践期間（平成 28～30 年度）では、前回大会決議の実践を基本に、「農協改革」の経過や農業・組合員・J A を取りまく情勢と課題を踏まえ、「創造的自己改革」に取り組むこととします。

この創造的自己改革に取り組むことで「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に全力を尽くします。

- 「創造的自己改革」とは、組合員の願いを実現するため、各々の J A が多様な農業・地域の実態に応じて、自らの創意工夫に基づく積極的かつ多彩な事業と組織活動を展開し、地域の農業とくらしになくてはならない組織となることをめざす改革です。

- 「農業者の所得増大」、組合員と国民の期待に応える安全・安心な農畜産物の安定供給に向けた「農業生産の拡大」に十分な成果をあげることを最重点課題として集中的に自己改革に取り組むことが必要です。

- 併せて、組合員の営農とくらしの課題に向き合う事業・組織活動を通じて、農業振興による地域の雇用や所得への貢献、生活インフラ機能の発揮、地域コミュニティの活性化等による「地域の活性化」に取り組むことが必要です。

- また、組合員の世代交代や多様化に伴い、「協同組合」としてのあり方が問われていることから、役職員の意識改革と組合員組織の活性化等により、組合員のメンバーシップ強化に取り組み、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」を確立することが必要です。

- このため、J A グループ岡山は、以下の実践に徹底して取り組みます。

- ① J A は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を自己改革の最重点課題として、組織一丸となって自己改革に取り組みます。
- ② J A は、営農とくらしの課題に向き合う事業・組織活動のより一層の展開を通じて、「地域の活性化」に取り組みます。
- ③ J A は、役職員の意識改革と組合員組織の活性化等により正・准組合員のメンバーシップ強化に取り組みます。これにより、上記とあわせて「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」を確立します。
- ④ J A グループ岡山は、J A の総合力を最大限に発揮し、将来を見据えた組織体制を確立するため、1 県 1 J A 構想の検討に取り組みます。
- ⑤ 連合会及び中央会は上記のため、J A の総合事業への支援・補完機能を徹底して発揮します。